

《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者とのかかわり》

今までの活動で、枝豆から大豆になることや更には大豆を加工すると豆腐や味噌、きな粉などになることを知った子どもたち。資料や絵本・図鑑などで調べるうちに「大豆」が「もやし」に変身することもないの間に知っていた。すると保育者から声掛けをしなくても自分たちから、「もやしを育ててみたい！」と言い出し、実行に移すことにした。今回は食べることを目的とせず、どんなふうに生長するのかを知ることが目的とし、もやし栽培を行うことにした。



今回は、自分たちで育てた大豆は使わずに、「子大豆もやし」の種を使うことにした。

～栽培の流れ～

●まずは大豆の種の汚れを取るためにさっと水洗いし、一日水に浸す。



「水に入れたら、どうなるのかな？」

「お餅つきのもち米みたいに・・・おおきくなるのかな??」



●一日水に浸した大豆をザルにあげ、水を切る。



「あれ、形が変わった!!」

「枝豆みたいな形だね。」

<水に浸す前>



<水に浸した後>



「水に入れる前は、硬くてまん丸い！！」「それにちっちゃいね！」
「水につけた後は、柔らかーい！！」「匂いもなんだか、お豆みたい」
「枝豆みたい・・・でも色が違うね！」など触ったり、匂いを嗅いだりして楽しんでいた。

●水切りをした大豆(種)を栽培セットの容器に入れ、蓋をして光を避けて発芽するのを待つ。



2, 3日後・・・



「芽がでたー！！」 「しっぽみたい☺ 面白いね♪」
「そっと触らないと、芽がとれちゃう💧」 「ツルツルしてる」

●芽が1cmまで伸びたら、目の先端を下に向けてトレーの植え穴に入れる。黄緑の容器には水を入れる。



「おもしろーい♪ ゲームみたい！」
「なかなか芽が、穴に入らなーい💧 難しいよー！！」
「う～ん。いい匂い！！ 美味しそう。」 「食べちゃダメだよ！」
「どこの穴が空いてるかな？ まだまだ埋まらない！」
「できだー！！」

●後は蓋をして1週間ほど待つともやしとなり、5～7センチほど伸びる。

もやしだー！！



あまりにも「もやし」の生長が気になりすぎた子どもたち。何度も何度も黒い蓋を開けて、中の様子を確認していたため、黄土色だったもやしの豆の部分、日が当たり黄緑色になってしまった。しかし、みんな気にせず大喜びだった。「このままもっと大きくしたい！」ということで、そのまま放置状態？見守ることにした。その結果が・・・

うわー！枝豆みたい。
頭さげてるね◎



大きくなってきたね！



モジャモジャしてる。
もやしがながーい！！



こんなに大きくなるんだね！
水でも野菜が育つんだ！！



1本取ってみよう。
あっ、もやしの匂いするよ！

みんなで観察して絵を描くことにしました！
他の学年のお兄さん・お姉さんも参加して！！

面白いけど、
ちょっと描くの難しいよ。

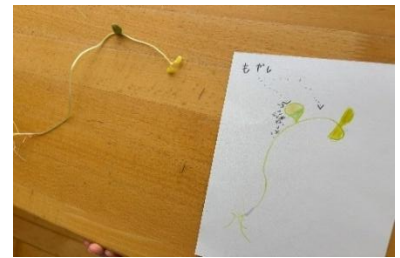


え〜っと
もやして
細いね！

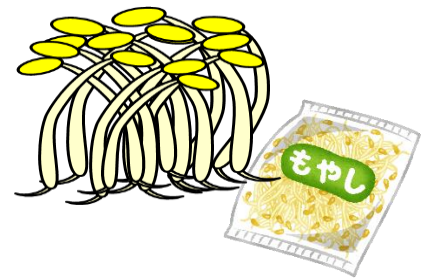


虫眼鏡で

よく見えるかな？



観察画の完成！！個性があふれていました。



もやしの生長の速さや、1、2週間という短い時間の中でどんどん変わりゆく姿に、子どもたちは驚きの表情を見せていた。また今回は、食べることを目的としていなかったこともあり、子どもたちが「もっと大きくなるまでを見てみたい」という思いにも答えることができた。また、栽培キットを使わずに別の栽培の仕方にも挑戦した。シンプルな栽培の仕方であったが、子どもたちは色々な育て方があることにも興味を示し、目に見える変化を楽しむ姿が見られた。

別の栽培方法とは・・・

●一日水に浸した大豆を下の容器に、水を切った状態に入れる。そして、蓋を取り水切りネットをつけて蓋の部分を覆う。そして、段ボールなどの中に入れ、暗い中で保管し、一日一度水を替える。



この方法での栽培は、毎日水ですすぎ、水切りをすることが必要となった。しかし、子どもたちは仕事というよりも楽しんでお世話を行っていた。その中で、自分たちで気を付けることを教えたり、伝え合ったりしていた。そして、栽培キットでの栽培同様、途中からは段ボールから出し、時間を見つけては観察し、温かいまなざしで見つめる子が多くいた。

見事にもやしができました！！

《振り返り》

今回の活動では、栽培キットだけではなくシンプルな容器も用意し、2通りの方法で栽培に挑戦した。保育者は、子どもたちと共に本や資料を見て学び、保育者はサポートにまわり、子どもたち主体で取り組むことができた。この育て方の違いをワクワクしながら感じたり、土ではなく水だけでも野菜が作れることを知ったりすることができた。また、野菜によって短時間で栽培できるものがあることも学んだ。

日常の給食の様子を見る限り、子どもたちの中には「もやし」を食べるのを苦手としている子が多いように思われる。しかし、事前の活動で枝豆を栽培したり、そこから大豆に生長させたり、大豆からきな粉を作り食べてみたり、大豆に関連する食材の味噌と豆腐を使ったお味噌汁をいただいたりと「大豆」に多く関わることで、「大豆」に興味を持ち、身近な存在となっていった。これらの今までの活動がなかったら、ここまで子どもたちも楽しんで取り組むことができなかったと思う。この1年を通して単発の活動ではなく、関連づけた内容に取り組めたことで、子どもたちの知識も深まり、より調べたい気持ちが大きくなっていった。年少組ではできることが限られてしまい、もっと踏み込んだことを行いたい気持ちもあったが、まずは探究心を養う意味で色々な活動に取り組むことができたことは、良かったと思う。